

表Ⅳ-13 排ガス処理法の比較

	吸 収	吸 着*	直接燃焼	接触酸化
適用ガス	おもに無機ガス	炭化水素、有機溶剤（低濃度ガス）、悪臭	炭化水素、有機溶剤（除高濃度塩素系溶剤）、悪臭	炭化水素、有機溶剤（除高濃度）、悪臭
長 所	低コスト、大量処理可、ダスト・ミストの同時処理可	除去効率大、操作简单、濃度変動に対応可	混合ガスに適、除去効率大、予備処理不要	混合ガスに適、除去効率大、燃料費小（直燃に比し）
短 所	除去効率やや小、液処理必要、材質腐食性大	高温・含塵ガスは前処理必要、高濃度ガス不可	燃料コスト大、装置容積大	ダスト・ミスト前処理要、触媒毒含有ガスには不適
安 全 性	安 全	高濃度ガス流入の可能性あれば防爆措置必要	十分な安全対策必要、爆発下限界(LEL) 20%以下に保持	十分な安全対策必要、爆発下限界(LEL) 20%以下に保持
二次公害対策	水質汚濁のおそれあり対策が必要	前処理として水洗する場合廃水処理要、吸着剤の処理	酸化生成物および燃料の燃焼に伴う有害物質に注意	酸化生成物に有害物質を含む場合は要注意、前処理に水洗する場合廃水処理

*おもに吸着剤交換型

〔労働省労働衛生課：局所排気・空気清浄装置の標準設計と保守管理（下）（空気清浄装置編）。第1版。中央労働災害防止協会。1985；p140〕から引用